

हुRP

HuRP通信
2012年

7月号 (第71号)

<http://www.hurp.info>

最近、ようやく新聞・報道番組でも取り上げられるようになった「脱原発デモ」。各地で行われるそれらに、足を運んだことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

これまで、市民はテレビに向かって、あるいは飲み屋で文句を言っていたかもしれませんが、それがこの間、デモというカタチで外に出て、思い思いに意見を表明しているのはなぜでしょうか。

毎週金曜日の「首相官邸前デモ」や、ほかの大きな「脱原発デモ」に参加した会員の E.S.さんに、レポートをお願いしました。



2012年7月16日 代代木公園

反原発デモに参加して考えた

■「デモに人が集まらない時代」は終わった！？

毎週金曜日夜に行われてきた首相官邸前デモは、6月に入って参加者が1万人を超え、回を追うごとに人数を増やし、7月16日の代代木公園ではとうとう10万人規模（主催者発表17万人、警察発表7万5千人）に達した。現地に行くと分かるが、万単位の人が集まる迫力にはブツたまげる。東京ディズニーランドなどでしか見たことがない、ものすごい人出である。少なくとも原発問題に関しては「デモに人が集まらない時代」は終わった。

■怖～い、楽しくな～いデモ

私は、大学時代に法学部の憲法の講義で、デモ行進の自由は、憲法が国民に保障する権利であり、市民が政治的意見を表明し、民主主義を支える重要な手段だから、尊重されなければならないと習った。しかし、1960～70年代には大規模なデモが

あり、過激化して抑えられたりもしたが、それ以降は大きなデモが行われることは無くなったという認識であった。私が初めてデモに参加したのは、2003年の自衛隊イラク派兵反対デモだったが、たくさん警察官たちと公安警察の私服警官たちに見守られて、とても怖い思いをしてビクビクしながら孤独に歩いた。

■デモが変わった！

最近の反原発デモは、従来のデモと様変わりした。まず、①参加者層の変化。20～30代くらいに見える人たちが多く、子ども連れも多い。次に、②参加者の集まり方の変化。デモの情報はメーリングリストやインターネットで調べる。ツイッターで、刻々と変化するデモの状況、駅のどの出口から出ればよいか、持ち物の注意、熱中症対策、逮捕されたときの連絡先など、便利な情報がいろいろ流される。また、③デモのやり方の変化。最近のデモの掛け声はリズムカルで、言葉もシンプルである。手作りや、ネット上のフリー素材をブ



2012年6月29日の様子。国会議事堂前駅付近で撮影

リントして作ったプラカードを持参する。そして、④参加者数の増加。警察官等よりも参加者の数の方がずっと多いので、怖い思いをせずに済む。また、⑤平和的で楽しい雰囲気がある。掛け声は、あまり過激な内容がなく、わりと上品だ。警察と衝突することはほとんどなく、終了時間がくると主催者が「解散してください〜い！」と呼びかけ、みんなお行儀良く電車に乗って満足気に帰って行く。そして、⑥報道のされ方の変化。新聞やテレビではあまり報道されない。しかし、YouTube 等などの動画投稿サイトや、ネットニュースなどの新たなチャンネルが増えたので、インターネットでデモの様子が広く伝播される。7/16 代々木公園のデモでは、ヘリまで飛ばしてネットで映像を流していた。いまや「テレビや新聞が報道しなくて構わないさ！ 自分たちで伝えればいいし」と開き直ることもできる。

■なぜデモに行きたくなったのか？

福島第1原発事故で家や仕事を失った人々はもちろん、東日本には様々なレベルで不利益を被っている人々が何千万人という。私自身も、2人の小さな子どもがいるので、事故後には家族を一時非難させたし、事故以来ずっと飲食物を選んで与えている。子どもの健康・安全を守るためには、失敗が許されないので、大丈夫かもしれないけれど心配がある場合にはリスクを避ける。子どもたちは確実に被爆しており、申し訳なくて辛い。経済的にも労力的

にも精神的にも負担は小さくない。ベストを尽くすしかないことが分かるから、もはや感情的にはならないが、冷静に真剣に怒りが心の底に溜まってきている。節電もするし、電気料金が上がっても払うが、「原発はもううんざりだ、止めてくれ」くらい言わせろと思う。怒りのレベルは人によって様々だが、事故から1年以上が経って状況がどのように変わったかを考えたとき、デモに行っ「原発反対！」と声を出して言いたいと初めて思ったとしても不思議ではない。

■何のためにデモをする？

ネット上には、新しいスタイルのデモに感動したという好意的意見の一方で、「デモなどやっても何も変わらないから意味がない」「自己満足にすぎない」といった否定的意見が多く書き込まれている。

私は2つのことを思う。「デモで変わらなかつたっていい。」でも「確実に効果がある。」

国の政策を変えるほど強制力をもつようなデモは「革命」と呼ぶべきものだろう。平和的なデモはそのような強制力など持ち得ない。私は、デモは市民が政治的意見を表明する一つの手段であり、重要な社会的行為だと習った。国民が民意を政治に反映させる手段には、まず選挙があるが、それだけではなく、報道・出版をはじめとする様々な言論活動があり、またデモもある。政党や労組などが市民の意見を媒介できなくなったと言われている昨今、強い帰属意識や連帯を押し付けられることなく、大卒で意見が一致すると感じられる空間に、多くの人たちが集まる。それだけでいいし、それだけなのがいい。

デモで現実がすぐ変わると思うほどみんなおめでたくはないが、冒頭に書いたとおり、万単位の人が集まる迫力は凄い。東京のど真ん中で、毎月10万人規模のデモが起こったらどうなるか？ 国会の周りを取り囲むデモになったらどうなるか(7/29に予定されている)？ 日本の人口約1億2千万と比べれば数十万人だって僅かな割合だが、それだけの人々が実際にわざわざその場に出向いて意見を表明し、その事実が口コミやネット上で伝播され、反応が様々なレベルで連鎖することのインパクトを過小評価すべきでない。

また、「何も変わらないなら自己満足だ」という意見は、デモの外的な側面しか見ていない。デモの

参加者1人ひとりの内面的な効用も見べきだ。思っていたことを表現してスッキリする、同じ意見を持っている人が他にもいることが分かって勇気づけられる、それだけでも満足感がある。われわれには生活があり、家族があり、仕事があり、人生の目標があり、選挙があり、茶飲み話があり……いろいろ

ろあってこの民主主義社会の中で生きている。民主主義の形成過程は複雑であり、デモに結集した人々の行動や思いが、その後どのように影響を及ぼし展開していくかは、単純には語れない。

(E. S.)

◆HuRPの本 ぜひ、お申し込みください！



「延世大学 金大中図書館に行ってみよう」

人権・平和国際情報センター編

2012年6月25日刊行 定価1,000円 株式会社 HuRP 出版

民主主義を、ソウルで学ぶ

本書は、金大中図書館の紹介であると同時に、より理解するための情報がコンパクトにまとめられています。分断国家という現実を背負いながら、軍権力の究極の弾圧に対抗して、民主主義社会を実現した韓国民衆の現代史に学び、歴史は民衆が作るという真実と、そこに常に金大中氏がいたことの意味を肌で感じることは、私たちと私たちが住む日本社会に多くの示唆を与えてくれると思います。

ぜひ、本書を手にも、金大中図書館に行ってみませんか。

今月のHuRP

NPO 法人

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」が設立記念集会を開催

広島、長崎の原爆被害にあった被爆者の証言など集め、整理し後世に残すことを目的とする「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」がNPO法人になったことを記念する集会が、7月15日に東京有楽町の朝日ホールで350人が参加し、開催されました（会は、大江健三郎氏、肥田舜太郎氏、安斉育郎氏とこの会の代表理事を務める岩佐幹三氏代表委員の呼びかけで、2011年12月に発足）。

3.11後の福島第1原発事故による放射能被害



が今なお続く今日、代表理事を務める日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の岩佐氏は、挨拶で「核被害の脅威から人類を解放する役割の一端を果たしたい」と述べました。

集会は、朗読劇、被爆者の証言聞き取り活動、東京の高校生による平和活動の紹介、首都大学東京・渡辺英徳准教授による広島・長崎の原爆の写

真や証言をネット上の地図に立体的に示すアーカイブ制作などについての報告の後で、福島わたり病院の斎藤紀医師、被団協事務局次長の木戸季市さん、そして精神科医の香山リカさんによるパネルディスカッションが行われました。

香山さんが「一步踏み出ことにより、原発に依存しない平和な社会が実現したとき『あのとき日本の若い人たちが頑張ったおかげ』と言われる可

能性もある。頑張りましょう」と語った意味は、60年以上前に被爆者の体験、証言を現在と未来に確実に残すことが、核兵器や原発などのない社会を創造する第一歩ということではないかと思いました。

今まで、十分意識されてこなかったこうした取組みに HuRP も接点を持つことが大切、ということも認識させられた集会でした。 (RK)

♪ オノQの今月の一曲 ♪

“Born In The U.S.A.”

(Bruce Springsteen, 1984)

・誤解される音楽

音楽はときとして作者などの発信者側の意図とは異なる文脈で捉えられることがあります。今回紹介する曲は、ロックミュージックの歴史のなかでも有名な「誤解」を生んだ曲です。

シンガーソングライターのブルース・スプリングスティーンは、希望のない町に生まれ、ベトナムの戦場に送られ、帰還しても行き場のない苦しみにあえぐアメリカの若者像を歌に込めていました。しかし、いわゆるサビの部分で“Born in the U.S.A”という、ともすれば愛国的な表現にも聴こえるフレーズを繰り返すことから、当時選挙運動中のレーガン大統領のキャンペーンに利用されかけるといふ事態が発生してしまいました。やはり、純粋な愛国的な音楽というよりも、「これが俺の産まれた国アメリカなのか」という反語として解釈するのが自然でしょう。

音楽の味わい方は自由かもしれませんが、解釈をしないままに音楽を利用することは問題を引き起こすことがあります。

音楽は、時として都合の良い使われ方をされてしまいますが、曲の発信者の意図は何なのか、そこから離れた使われ方をされていないか。聴き手として、こうした点にも注意を払いたいと思う曲です。



ブルース・スプリングスティーン

★編集後記★

蒸し暑くなってきました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。今号の特集は「デモ」。毎週金曜日の官邸前デモは「紫陽花（あじさい）革命」と呼びかけられたのをご存じでしょうか（実際、あじさいの花を持って歩く人たちも見かけました）。もう梅雨はあけたのになぜ？ と思っていたらそうではなく、「小さな花が集まる紫陽花」のイメージが、「国民一人一人には国を動かす力はなくとも、問題意識を持った大勢の人が集まって意見を政府にぶつけることができれば、国の方向性を変えることもできる」というデモの主旨と重なる、ということだそうです。先日の「将来のエネルギーに関する国民意見聴取会」、まだそんなことやってるのかと呆れながらも、やはりここで傍観者となるべきではないでしょう！ というわけで、私も行ってきます！ 来月は、この HuRP 通信も新編集長にバトンタッチの予定です。ぜひ楽しみに。 (A)

特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハープ)
Human Rights and Peace Information Center Japan (HuRP)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-17-8 丸十ビル 402 号
TEL/FAX 03-6914-0085 e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>